



JANOME

第81期中間報告書

(2006年4月1日～2006年9月30日)

蛇の目マシン工業株式会社

証券コード：6445



代表取締役社長

加藤 隆一

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
また、日頃より暖かいご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。
ここに第81期上半期（2006年4月1日から2006年9月30日まで）の営業結果についてご報告申し上げます。

(1) 経営成績

当中間連結会計期間におきましては、活況が続く企業業績に支えられ雇用情勢が改善し、個人消費も堅調に推移するなど景気に回復傾向が見られました。

しかしながら、記録的な原油高に伴う原材料費の上昇やゼロ金利解除に伴う金利の上昇懸念、不安が長引く中東情勢に加え、緊張が高まる北朝鮮問題など、世界経済は依然として不透明感が拭いきれません。

当社グループにおきましては、『JUMP-2 PLAN』に基づき、迅速な意思決定のもと、更なる飛躍をめざし積極的なグループ経営に努めてまいりました。

当中間連結会計期間はドル高円安基調で推移したこともあり、**連結売上高は231億4千4百万円**（前年同期比1億6千9百万円増）となりました。しかし、**営業利益**につきましては、原材料費の高騰等により売上原価が増加し、販管費の圧縮に努めたものの**9億5千8百万円**（前年同期比2億7千6百万円減）の計上、**経常利益**につきましては、有利子負債圧縮による支払利息の減少がありましたが**8億2千9百万円**（前年同期比2億2千4百万円減）の計上となりました。当中間連結会計期間の**純利益は1億9千1百万円**（前年同期比4億9百万円減）の計上となりました。

個別決算につきましては、**売上高は190億9百万円**（前年同期比9億4千1百万円減）となり、**営業利益は6億2千8百万円**（前年同期比4億3千5百万円減）となりました。また、**経常利益は13億1千3百万円**（前年同期比6億3千9百万円減）となり、**純利益は7億7千6百万円**（前年同期比9億9百万円減）の計上となりました。

なお、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、中間配当金は無配とさせていただきますました。

次に、当中間連結会計期間の事業セグメント別の概況をご報告いたします。

<ミシン関連事業>

海外市場におきましては、ディーラー向け販売促進支援の充実、新規市場の開拓など積極的な販売活動を展開いたしました。しかしながら、特に北米において量販店向け販売で苦戦を強いられた結果、売上高は前年同期比約4億円の増加に止まりました。

国内市場におきましては、ソーイング教室の展開、販売促進キャンペーン、各種展示会への出展等を通じてミシン需要の喚起に努めました。

しかしながら、在宅率の低下など訪問販売を取り巻く環境が厳しさを増したことや、低価格化による影響を受け、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、**ミシン関連事業の売上高**につきましては、ほぼ前年同期並の**170億1千万円**（前年同期比7千1百万円減）の計上となりました。

<産業機器事業>

産業機器事業につきましては、前期に引き続き、自動車、半導体ならびに電子機器業界の増産のための設備投資の増加に支えられ、業績は好調に推移いたしました。重点施策として、産業機器商材の応用領域を広げるための他社とのコラボレーションの積極的な推進、技術サービス拠点の構築を進めた結果、卓上ロボット、エレクトロプレス需要拡大につながりました。

また、国内外の各種展示会への出展や、広告宣伝媒体の拡大、キャラバンカーによる当社製品の出張展示・実演などに努めた結果、**産業機器事業の売上高**は、前年同期を上回り、**23億8千9百万円**（前年同期比2億7千9百万円増）の計上となりました。

<24時間風呂・整水器事業>

24時間風呂・整水器事業につきましては、積極的な顧客開拓や、各種キャンペーン、水回り関連の展示会への出展ならびにテレビコマーシャル等による販売促進を図りましたが、**24時間風呂・整水器事業の売上高**は、**11億7千9百万円**（前年同期比2億3千2百万円減）の計上となりました。

<その他サービス事業>

ソフトウェア・情報処理サービス、24時間風呂据付サービス等に、当社の不動産賃貸収入を加えた**その他サービス事業の売上高は、25億6千6百万円**（前年同期比1億9千4百万円増）の計上となりました。

(2) 財政状態

当社グループの当中間連結会計期間末の**総資産は、598億6千2百万円**（前年同期比36億8千7百万円減）となりました。

負債の部では、有利子負債が前年同期に比べ101億2千3百万円減少したこと等により、**382億5百万円**（前年同期比87億5千7百万円減）となりました。

純資産の部（少数株主持分を含む）は、前期末に比べ13億1千7百万円増加して**216億5千7百万円**（前年同期比50億6千9百万円増）となりました。

当中間連結会計期間のキャッシュ・フローの状況は、**営業活動によるキャッシュ・フローは3億2千8百万円のプラス、投資活動によるキャッシュ・フローは17億9千3百万円のマイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは9億2千8百万円のマイナス**となりました。

これらの結果、**現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は35億6千9百万円**となりました。

(3) 今後について

今後につきましては、2007年3月期より推進しております2カ年計画『JUMP-2 PLAN』に基づき、復配ならびに更なる飛躍を目指して全社一丸となって邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。
ホームページ <http://www.janome.co.jp>

中間連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表 (2006年9月30日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	25,303	流動負債	17,028
現金及び預金	4,175	支払手形及び買掛金	4,649
受取手形及び売掛金	9,100	短期借入金	8,933
有価証券	1,452	一年以内償還予定の社債	250
たな卸資産	8,583	未払法人税等	302
その他	2,533	賞与引当金	721
貸倒引当金	△ 541	その他	2,172
		固定負債	21,176
		社 債	3,225
固定資産	34,558	長期借入金	7,369
有形固定資産	23,376	再評価に係る繰延税金負債	5,137
建物及び構築物	4,475	退職給付引当金	4,688
土地	16,462	その他	755
その他	2,439		
		負債合計	38,205
		(純資産の部)	
無形固定資産	1,990	株主資本	17,202
		資本金	11,372
		資本剰余金	823
		利益剰余金	5,010
		自己株式	△ 4
投資その他の資産	9,191	評価・換算差額等	3,866
投資有価証券	3,033	その他有価証券評価差額金	212
繰延税金資産	4,988	土地再評価差額金	4,355
その他	1,225	為替換算調整勘定	△ 701
貸倒引当金	△ 56		
		少数株主持分	588
		純資産合計	21,657
資産合計	59,862	負債・純資産合計	59,862

■ 中間連結損益計算書 (2006年4月1日~2006年9月30日)

(単位：百万円)

科 目	金	額
営業収益		
売上高		23,144
営業費用		
売上原価	11,932	
販売費及び一般管理費	10,254	22,186
営業利益		958
営業外収益		
受取利息	32	
受取配当金	32	
為替差益	115	
持分法による投資利益	3	
その他の他	86	269
営業外費用		
支払利息	202	
有価証券運用損	81	
その他の他	114	398
経常利益		829
特別利益		
投資有価証券売却益	366	
固定資産売却益	13	379
特別損失		
弁護士費用等	128	
たな卸資産評価損	26	
固定資産売却及び除却損	21	175
税金等調整前中間純利益		1,033
法人税、住民税及び事業税		285
法人税等調整額		540
少数株主利益		16
中間純利益		191

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (2006年4月1日~2006年9月30日)

(単位：百万円)

科 目	金	額
営業活動によるキャッシュ・フロー		328
投資活動によるキャッシュ・フロー	△	1,793
財務活動によるキャッシュ・フロー	△	928
現金及び現金同等物に係る換算差額		14
現金及び現金同等物の増減額 (減少：△)	△	2,378
現金及び現金同等物の期首残高		5,947
現金及び現金同等物の中間期末残高		3,569

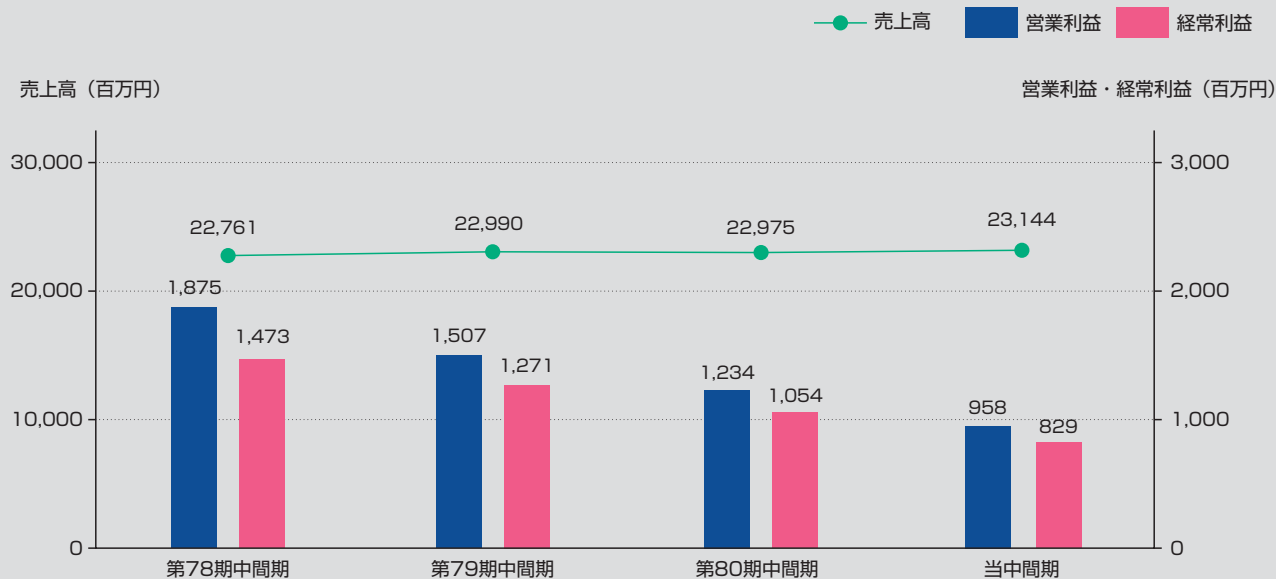
■ 中間連結株主資本等変動計算書 (2006年4月1日~2006年9月30日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評価・換算 差 額 等	少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成18年3月31日 残高	10,622	3,000	1,892	△ 4	15,510	4,221	607	20,339
中間連結会計期間中の変動額								
新株の発行 (新株予約権の行使)	749	749			1,499			1,499
中間純利益			191		191			191
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
資本準備金から利益剰余金への振替		△ 2,926	2,926		-			-
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額 (純額)					-	△ 354	△ 19	△ 373
中間連結会計期間中の変動額合計	749	△ 2,176	3,118	△ 0	1,691	△ 354	△ 19	1,317
平成18年9月30日 残高	11,372	823	5,010	△ 4	17,202	3,866	588	21,657

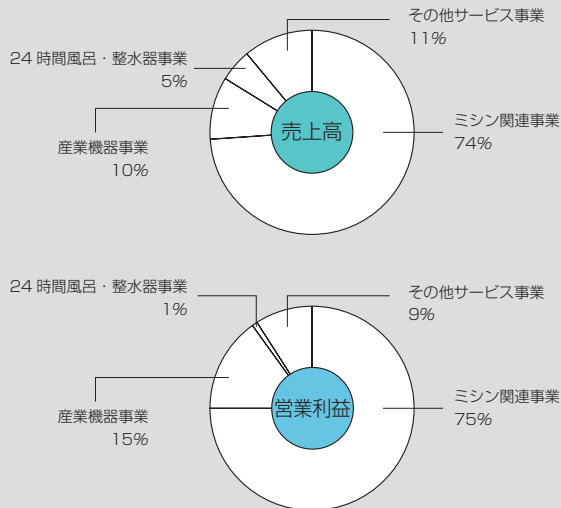
連結決算推移

● 売上高・営業利益・経常利益

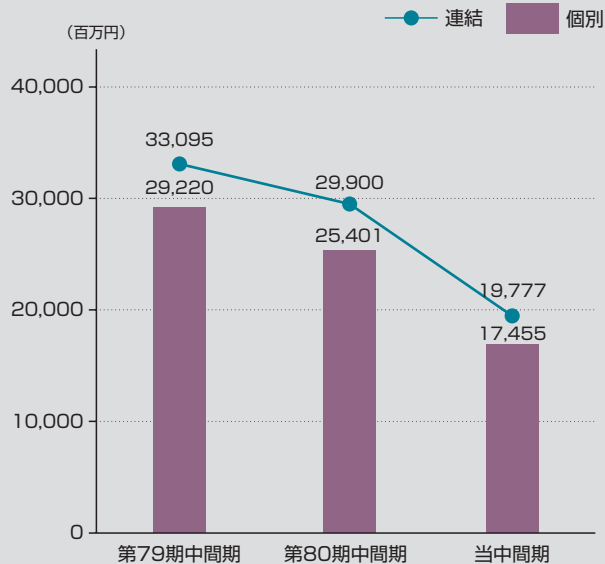


●中間連結セグメント情報 (2006年4月1日～2006年9月30日)

事業の種類別セグメント



●有利子負債残高推移



株式の状況

(2006年9月30日現在)

発行可能株式総数	3億6,000万株
発行済株式総数	1億9,521万4,448株 (前期末比667万8,539株増)
当中間期末株主数	25,258名 (前期末比2,354名増)

株主構成比率 (所有株式数ベース)



中間個別財務諸表

■ 中間個別貸借対照表 (2006年9月30日現在)

(単位: 百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	18,237	流動負債	15,830
現金及び預金	2,497	支払手形	350
受取手形	1,271	買掛金	6,883
売掛金	6,945	短期借入金	6,756
たな卸資産	2,146	一年以内償還予定の社債	250
その他	5,452	未払法人税等	89
貸倒引当金	△ 77	賞与引当金	391
		その他	1,110
固定資産	34,802	固定負債	19,667
有形固定資産	19,839	社 債	3,225
建 物	3,334	長期借入金	7,224
土 地	15,810	再評価に係る繰延税金負債	5,137
そ の 他	693	退職給付引当金	3,365
		そ の 他	716
無形固定資産	566	負債合計	35,498
		(純資産の部)	
		株 主 資 本	12,968
		資 本 金	11,372
投資その他の資産	14,396	資本剰余金	823
投資有価証券	2,860	利益剰余金	776
関係会社株式	6,055	自己株式	△ 4
繰延税金資産	4,460	評価・換算差額等	4,572
そ の 他	1,076	その他有価証券評価差額金	216
貸倒引当金	△ 56	土地再評価差額金	4,355
		純資産合計	17,540
資産合計	53,039	負債・純資産合計	53,039

■ 中間個別損益計算書 (2006年4月1日~2006年9月30日) (単位: 百万円)

科 目	金 額	
営業収益		
売 上 高		19,009
営業費用		
売 上 原 価	12,726	
販売費及び一般管理費	5,654	18,381
営業利益		628
営業外収益		
受 取 利 息	25	
有価証券利息	1	
受取配当金	929	
為替差益	38	
雑 収 入	18	1,013
営業外費用		
支 払 利 息	131	
有価証券運用損	81	
雑 損	116	329
経常利益		1,313
特別利益		
投資有価証券売却益	366	
固定資産売却益	0	366
特別損失		
弁護士費用等	128	
たな卸資産評価損	26	
固定資産売却及び除却損	16	170
税引前中間純利益		1,509
法人税、住民税及び事業税		160
法人税等調整額		573
中間純利益		776

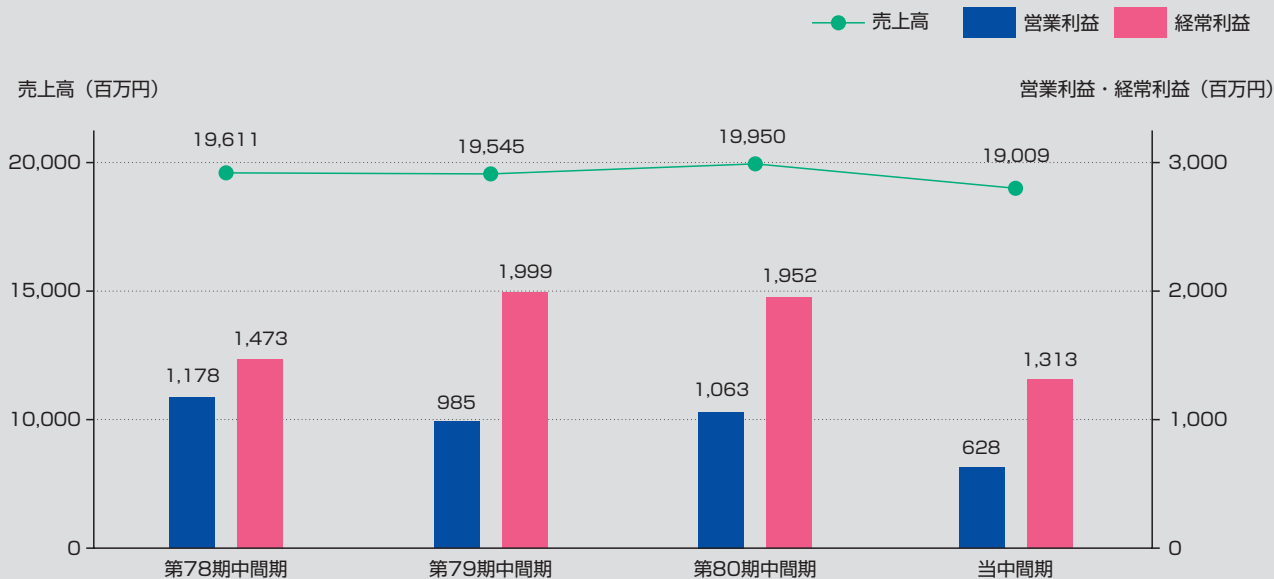
■ 中間個別株主資本等変動計算書 (2006年4月1日~2006年9月30日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計		
平成18年3月31日 残高	10,622	3,000	△ 2,926	△ 4	10,691	5,010	15,702
中間会計期間中の変動額							
新株の発行 (新株予約権の行使)	749	749			1,499		1,499
中間純利益			776		776		776
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
資本準備金から利益剰余金への振替		△ 2,926	2,926		-		-
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額 (純額)					-	△ 437	△ 437
中間会計期間中の変動額合計	749	△ 2,176	3,702	△ 0	2,276	△ 437	1,838
平成18年9月30日 残高	11,372	823	776	△ 4	12,968	4,572	17,540

中間個別決算推移

●売上高・営業利益・経常利益



ジャノメ・インターナショナル・カンファレンス・タイランド 2006 開催 2006年10月1日～5日

日本、オーストラリア、ヨーロッパをはじめ、世界24カ国から350名を超えるディーラーが参加し、「ジャノメ・インターナショナル・カンファレンス・タイランド 2006」を、タイのパタヤにて開催いたしました。

この会議では「ミシンで一体何ができるのか」「ジャノメ製ミシンの優秀性」を理解していただくために、世界のディーラーに対し、社内外の講師による延べ67の教室・セミナーを開講いたしました。

セミナーは大変盛況で、どの教室も連日多くのディーラーが受講し、非常に好評を得ました。

今後も継続的にこの国際会議を開催する予定です。



「エルナ」ブランドの取得

2006年8月11日

家庭用ミシン大手 Elna International Corporation（以下エルナ社）の全株式を取得し、世界的ブランド「エルナ」の商標権と同社の販売網を獲得いたしました。

エルナ社は、1940年にスイスのジュネーブで創業され、デザインおよび品質の優秀性から家庭用ミシンの高級分野において、欧州、北米、オセアニア諸国をはじめ世界的規模で根強いブランドイメージを維持しています。

当社は、1994年よりエルナ社との間で業務提携を結び、家庭用ミシンの開発・生産を続けてまいりました。今回「エルナ」ブランドとその販売網を取得したことにより、新たなマーケット戦略が可能になるほか、投入する商品ラインアップの拡大が図れることとなります。

当社は、2カ年計画『JUMP-2 PLAN』で“Renewal & Growth（更新と成長）”による高収益体質企業の実現を目指し、生産設備および販売拠点の拡充を進めており、今回の「エルナ」ブランドの取得もこうした成長戦略の一環として行なわれました。

新会社（株）サン・プランニング設立

2006年8月23日



当社は、洋裁・手芸用型紙の考案・発刊を主な事業とする、(株)サン・プランニングを100%子会社として設立いたしました。従来より関連会社であった旧(株)サン・プランニング社の解散に伴い、新会社としてスタートするものです。

新会社は「サン・パターン」「シンプリシティ・パターン」の商品名で知られる洋裁、和裁、編物および手芸用型紙の考案・発刊事業（国内シェア90%）を継続するとともに、当社ソーイングソフト開発本部と密接な連携を図りつつ、事業拡大を目指してまいります。

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	3月31日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (電話照会先) (郵便物送付先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
株式取扱手数料	名義書換……………無料 新券交付……………1枚につき200円 単元未満株式の買取りおよび買増し ……………株式の売買の委託に係る手数料 相当額として別途定める金額
公 告 掲 載 新 聞	東京都において発行する日本経済新聞 貸借対照表および損益計算書に関する情報は、当社ホームページ http://www.janome.co.jp に掲載しております。

お知らせ

◎住所変更、単元未満株式買取および買増請求、名義書換請求、株券喪失登録手続きに必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

- フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

蛇の目マシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1 TEL. 03 (3277) 2071